

第1回 ひとにやさしいまちづくりカフェ 聞き書き記録

記録：星野広美・鬼頭弘子

ひとにやさしいまちづくりカフェ（とりあえず、ひとまちカフェと呼んでいます）が、6月1日（金）の夜、スタートしました。

星野広美の趣旨説明の後、山田昭義さんに、お話ししていただきました。

参加者は、山田さんを含めて、16名。

多くの方に、直接参加していただけないのですが、それぞれご都合もあるでしょうし、「直接聴き話す」という関係を保つには、20～30人程度までだと考えています。

お話しいただいた内容は、できるだけ早く、記録化し、公開することで、多くの方に共有していただきたいと思います。ひとまち東海のHPに暫定版をアップし、その後、確定版をまとめて記録集として発行していきます。

山田さんのお話は、「今更、年寄りを…」という言葉から始まりました。

そんな言葉とは裏腹に、今とこれからを、力強く語っていただきました。



人にやさしい街づくり…

東日本大震災は何を問いかけているか

山田昭義（A J U自立の家）



街は、環境は、良くなったか？

話をいただいたときに、ちょうど、愛知県へ4月の終わりに、名古屋市に5月1日に、それぞれ、公開質問状を出したところだった。A J U（社会福祉法人A J U自立の家）で出すわけにはまいらぬ、ということで、愛重連（愛知重度障害者団体連絡協議会の略称）で出した。

東海・東南海・南海地震が起きるということですが、昨年3月11日の地震で、大きな課題を突き付けられた。

東北の話はスポーツダイジェストを見ているのと同じで、外野。でも、実際に震災を受けた人の思いをどういうふうに共有するか？

「愛知県重度障害者の生活をよくする会」は、自分たちが、単純に遊びでえで（「遊びたいから」の意）始めた活動だった。

それから40年余り、今では、47の都道府県全てで、条例ができた。が、良くなったか？

東俊裕（内閣府障がい者制度改革推進本部障がい者制度改革推進会議室・室長）によれば、格差は広がっている、都会は良くなったが、田舎は良くなっていない、と。

AJU自立の家 <http://aju-cil.com/index.php>
愛知重度障害者団体連絡協議会
<http://wadachi.ecom-plat.jp/group.php?gid=10449>
障がい者制度改革推進本部
<http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/kaikaku/kaikaku.html>

名古屋市体制

愛知県には条例ができた。

名古屋市は、指針をつくった。そのとき、「指針ではなく条例にせよ！」と言ったが、名古屋市は、福祉都市推進室をつくるからというので、妥協した。5, 6人で、室ができた。ところが、室から係へ、そして今年からは、課の中の1部署で、主査が1人いるだけ。後は、主幹が兼務で、5, 6人の専従から、1人になってしまった。

大きな枠組みができて安心していたのに。

今…

名鉄名古屋駅は、中部空港から来る大きな荷物の人や乳母車の人がいる。ひどい時には、2回、3回と待って、ようやくエレベーター(EV)に乗れる。EVが1台では、とても乗れない。

横浜での経験だが、EVの前には、乳母車の行列。ずら〜と並んでいて、3回待った。

これまで、「“障害者のために” こういうものを造って下さい」と一回も言っていない。それが、具現化したと言える。使いやすいまちができた。

瑞穂区役所に立派な車いすトイレがある。トイレへ入ると、電動車いすは、二進も三進も動けない。ギリギリのところに、オムツ交換の台、オストメイト…が付いていて、回転できない。「使えんよ」と言っているが。

今があるのは、

声を出し、闘い、勝ち取ったから
声を出せば確実に変わってくるという経験

をしてきた。

EVも、年寄り、乳母車、若者、みんなが使っている。EVを付けるために、障害を持った我々が、壮絶な闘いをしてきた。そういうことを知っているのか？、知っていて乗ってくれるならいいが。

年寄りの山田、三澤(三澤了)、中西(中西正司)の3人…シーラカンスのようなものだが、その3人で、シンポジウムをした。毎日々々、EVの無い駅で歩いている人を4人捕まえて、車いすを担いで、階段を降ろす…そういう闘いをしてきた、と。

名古屋でも、そういう闘いを、星ヶ丘駅でやった…そうして、わだち(AJU自立の家 わだちコンピュータハウス：重度の障害者がコンピュータを使って障害者就労支援施設)に通った。

そういう闘いのもとに、EVを勝ち取ってきた。

名古屋は、地の利がある。東京・大阪に挟まれ、東京や大阪のようにやっていたら、間違いがない、と。

東京では、年金のために闘い、毎日々々、国会へ押しかけて行った。名古屋は、それをもたらしてきただけ。そういう闘いの成果を受け取ってきた。

今回の障害者総合福祉法も、そういう闘いの成果。でも、東京だけにおんぶにだっこではなく、お金を出し合って、名古屋からも東京へ何度も通った。

まちづくりって、そういうことだ。声に出して動かなければ、微動だにしない。

支援費のときも、上限問題が出て、1月15日、寒風吹きすさぶ中、北海道から筋ジストロフィーの人も東京の国会まで来た。

こういうのが、まちを良くする原点だと思った。そういうことでまちが変わってきた。そういう動きがなければ、まちは微動だにしませんよ。

名古屋のバスは、98%がノンステップバスになった。活動が大きな役割を持つ。

仙台へ行ったとき、切符を買いに行き、「障害者は、3日前に申し込んでもらわないと…」と10年前のようなことを言われた。ふつうの切符を買いに行ったのに。コンパクトメントの切符は買えない。座席に移るわけではないので、デッキで本を読んでいる。なので、ふつうの切符でいいのだが。

仙台では、障害者が、まちに出ていないということだ。

障害者総合福祉法の骨格に関する総合福祉部会の提言

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/sougoufukusi/dl/110905.pdf>

阪神淡路大震災で…

ハートビル法は、条例に押され、積み上がってきた。

そういう中で、大震災が起きた。

阪神淡路大震災のときには、AJUは、西宮から3人の避難者を受け入れた。そのうちの一人は、筆筒が倒れたが、たまたま助かったと言う。

そして、彼らは、自らが先頭を切って自立した暮らしを再建させるんだ、と、名古屋だけで、1千万円以上集めた。芦屋の教会のボスが、資産を全部売って、復興に投げ出すということもあった。彼らは、地元へ帰って、自前の施設を造った。震災の前以上の活動ができています。

当事者も、我々サポーターもがんばって作った。

東日本大震災で…

宮城県名取市にドリームゲートというのがある。

震災の次の日の朝6時頃、AJUへ電話があって、「女性のヘルパーが動けなくなった、

女性ヘルパーを3人ほど派遣してほしい」と。その日の午後、出発。

現地では雪が降っていて、どうやって仙台へ入るか。ヘルパーを送り届けるだけではなく、男性2人を運転手に付け、人工呼吸器、備蓄品のラーメン、水などをあつだけ持たせ、ワゴン車2台に積んで、避難所を回れ、と。

その日の夜12時頃にやっと新潟へ着いた、その夜は新潟に泊って、次の日の夕方、現地へ入った。

仙台のありのまま舎へも備蓄品を届け、避難所を回った…が、障害者がいない。避難所にいないのは、当然。

僕も、2000年9月東海豪雨のとき、じわじわと不気味に水が上がって来る中1時間待って、御神輿のようにして助けてもらって、堤防の上へ。それでも、避難所に入らなかった。

避難所は、阪神淡路大震災のときは、通路は、けもの道。中越地震くらいから、碁盤の目に仕切られるようになって、なんとか通れるようになった。

それでも、トイレはどうする、体も拭けん。水がないので、洋式トイレは、すぐ使えなくなる。どこでトイレする？

特定非営利活動法人ドリームゲート

宮城県名取市、重度障害者の地域生活支援

<http://blog.canpan.info/dreamgate/>

社会福祉法人ありのまま舎

宮城県仙台市、身体障害者自立ホーム、重度障害者・難病ホスピス

<http://www2.ocn.ne.jp/~ari/>

被災地では…

障害者にとっては、何も変わっていない

声を出してきたのに、何も変わっていない。一般の支援については、本当に、進化した。

自衛隊が出て来て、3日もせんうちに(「経たない間に」の意)の、風呂ができた…でも、深い風呂。自衛隊の支援は、要援護者支援のことを考えていない。

軍医が取り仕切るトリアージは、傷を治すのではなく、傷ついたところをどう切って、命が助かる人だけを治療するために選別する。自衛隊も、1人1人のことを構っとると言うことはしなくていい組織。それが悪い、と言っているのではない。それだけでいいのか？心配なのだ。

大規模災害時における障害者対応についての 公開質問状

何も変わっていないというところから、こういうのをまとめて、愛知県、名古屋市、各党に出した。

防災の部署に持って行ったら、障害者のことは福祉へ、と言われた。福祉担当では、多岐に亘るので回答には1ヶ月欲しい、と言われている。

阪神淡路大震災の後、要望書を出したが、木で鼻をくくったような回答しか来なかった。

菅首相が、30年以内に東海地震が起きる確率は…というから、間違いないのだろうが、大地震が来たとき、障害者は？

そのときは、みんな被災している。「みんな被災者だから、あんただけ我が儘言うな。」、我が儘だと、障害者は切り捨てられて来た。

昔、施設でもそうだった、「我が儘言うな」と。施設にいた50年前と、運動を始めた40年前と、今、何も変わっていない。



津波てんでんこ…

障害者、要支援者は逃げられない

「津波てんでんこ」と、毎日のように新聞に載った。親でもほかっておいて逃げろ、と言う意味だ。でも、どのくらの津波が来たのか？、聴覚に障害のある人は、聴こえない。見えない人には、ラジオもなく、分からない。

「てんでんこ」…大きな枠の中では、大事なことだ。ある学校では、「てんでんこ」で助かった。

しかし、専門家、行政が、それを言うのはどうか？、障害者も、要支援者も、その逃げる手だてがされていないのに。群馬大の先生(片田敏孝)も、そう言うなら、こういうことも考えて言ってくれ。

東海豪雨で…

わたちのHPで、「障害者は避難所に避難できない」というのを載せている。

障害者は避難所に避難できない

http://www.aju-cil.com/public-doc/bousai/manual/rep_201104.pdf

東日本大震災では、想定外というのがいっぱい出てきた。想定外とは、想定があつてその想定を超えたのか？、もともとまったく想定していないのか？、想定外と言っておけばいいわ、と聞こえる。

名古屋の災害支援で有名な団体（レスキューストックヤード）のリーダーがいる。そこが、最初に出したのが、「ちょっと待て、行けば混乱する」だった。

現地は、混乱している。300人の職員のうち、100人が死んでいるところで、職員は不眠不休だ。東海豪雨のときも、役場は、不眠不休が1週間続いた。今回は、それどころでない。行政は混乱の極み。ボランティアが行かなくても混乱している。ボランティアが行って、72時間のうちに助けられた命があるだろう。

その防災支援のリーダーは、東海豪雨のときに、最初に、愛知県庁へ行った。

僕は、初めにやることは、現地へ行き、何が必要か聞くことだと思う。

東海豪雨のとき、僕は、朝、安否確認を、と指示した。夕方になって、「連絡がとれない」と言う。「アホか、連絡がとれんのが災害だ。現地へ行ったのか？、ボート買ってこい」…情けない。何が大事か見えていない。とにかく、名古屋市西区在住6人の仲間の現地支援をした。

そこから、AJUの取り組みが始まった。そして、ボランティアセンターを立ち上げた。

AJUは、心理専門家の2人に、寄り添い、被災者のメンタルフォローをさせた。中日新聞社会事業団に、物資支援してくれと頼んだが、ダメ。物資は出せんが、20万円までなら常務決裁でできるからということで、バケツやスコップなどのものを買って、その領収書を持って行った。

レスキューストックヤードでは、9月15日に県庁で、支援センターを立ち上げた。

東日本大震災で…

東北へは、支援してくれと求められたから、動く。

避難所で情報を集めて来いと言ったが、やっぱり障害者は居ない。

津波被災で、仙台は、まちごと根こそぎやられた。宮城野区、若林区は特に被害者が多い。三陸は直ぐ山だが、仙台平野は何も無い、避難するところも無い。

ありのまま舎の案内してくれた人は、高速道路の山側に居たから助かった、と言う。今、海側は、何も無く荒地、山側は、田植えが終わり田んぼが青々と、両極端だ。

避難所に行っても、名古屋から来たと言うと、オマエなんかは渡せるか、避難所以外の者には支援物資は渡せない、と。



東北で見たこと

僕は、阪神淡路大震災のときは、現地へ行ったのは半年後だった。足手まといになるから。

今回は、大船渡に従兄弟がいるから、行った。3月いっぱい電話が通じなかった。9月に行って、話を聞いた。

「その晩は、余震が怖くて寝れず。避難所に行かない人も多かった。そうすると、支援物資が一切届かない。1ヶ月は、本当にしんどかった。1ヶ月経つと逆転。

買い物に行きたくても、ガソリンが無いので、行けない。内陸の方に行けば、物はあるのに。

兄貴から、米と根菜類が8箱送られて来た。宅急便は、届けられないので、センターに取りに来てくれ、と言うので、取りに行って、隣近所に配った。」

大船渡で、2ヶ所のバリアフリーの仮設住宅へ行って来た。

寝れるが、風呂に入るのに跨がないと入れない、トイレは狭くて車いすで回転できない。議員が視察に来ると、ここが…、あそこが…と言うのだが、良くならない。「バリアフリー仮設住宅」なんだけれど、バリアフリーになっていない。

初めは、兄弟の家に行ったが、大人数で居るところがなく、車の中で寝ていた。で、今、バリアフリーの仮設住宅に。風呂は入れないので、週2回、気仙沼のデイセンターへ行って入れてもらった、と言っていた。

仮設住宅は、初めは、備蓄されていたプレハブ住宅を造る。バリアだらけの仮設住宅に、高齢者や障害者が入るが暮らせない。2番めに、地元のゼネコンがバリアフリー住宅を造る。でも、地元のゼネコンは、バリアフリー住宅の造り方を知らない。最後に、全国メーカーのゼネコンが造る。バリアフリーにできる。だんだん良くなる。でも、高齢者や障害者は、最初にバリアフリー住宅に入りたい。

まち…

南海トラフで大地震と、連日、マスコミで踊っていた。

そんなときに、『現代思想』に書いた。

行政は、一斉、大量、公平、平等、画一。制度としてつくれば、ぱっと広がる。そこから落ち零れるのが、要援護者。

まちづくりで言うと、皆さんが声を出す。行政は、市民がわあわあ言うから、動く。声を出せば、変わる。動けば、変わる。

東日本大震災1年を経過して思うこと

<http://wadachi.ecom-plat.jp/fbox.php?eid=14823>

僕には、子どもが3人いる。町の教育長は、僕の中3のときの先生だが、「僕が行けないような学校をつくるんなら、行政訴訟を起す

よ」と言ったら、教育長は「俺に言うな。助役に、町長に言え」と言うので、僕は、言った。

小学校もちゃんとバリアフリーにできた。中学校もちゃんとできた。そういう意味では、ちゃんと出来ていく。税金を使って、排除するモノを作ってはいかん。

昔、公民館が投票所ときは、スロープを敷いて、管理人がみんな来て、上げてくれた。管理人がみんな席を外してしまって。で、役場はバリアフリーだったので、不在者投票に行っていた。が、今は、投票所になっている学校で投票できる。選挙に行ける。

声を出し続ければ間違いなく変わる。40年も声を出し続ければ変わる。

町のUFJ銀行へ行った。歩道が狭いのに、スロープになっていて、なんとか行けるだろうと思って上って行ったが、ひっくり返ってしまった。偶々、車が来ていなかったのに、良かったが。役場に電話して、やって来た課長を、車いすに乗せて。道路は直さんならん（「直さなければいけない」の意）処ばかりだ。

（参加していた車いすユーザーの武豊町の議員に向かって）武豊町のまちなんて、危険がいっぱいある、山田の能書きなんて聞かんで、武豊をぐるぐる回ったらいい。特に、田舎に行くと歩道が狭い。

そういう運動の積み重ね。



想定する…

南海トラフで大地震というが、今ここで、直下型の大地震が起きたら、どうなる？

ほとんどの建物が倒れる、みんなどうする？みんな倒れて壊れたら、想定外だったと言うのか？

そうしてみると、何も解決されていない。

避難所は、一斉、大量、公平、画一。

避難所のリーダーは、目の見えない人や、車いすを使っている人という明らかな人しか「障害者」とみていない。

人工呼吸器を着けている人は、病院へ行っても、直ぐにどうこうするわけではないので、帰りなさい、と言われる。が、避難所に帰っても、居るところが無い。特別な支援が必要な人に、「画一」では居り場がない。

武豊ではどうする？、直下型だったらどうする？、名古屋で地震が起きたら、阪神淡路大震災のパターンになるだろう。M7.6の阪神淡路大震災。それが、M8.1だったら、名古屋はどうなる？

行動すること

ただ大変だ、大変だ。そして、「津波てんでんこ」。自分のことは自分でやれ。でも、自分のことが自分でできない人は？ふだんでも、できない人は？

一斉、大量、公平、画一。

精神障害の人は、薬が切れたら？

車に避難している人には、支援が届かない。我々が社会に問題提起することが必要だ、なにもしないと、微動だにしない。

前に、防災と言ったら、社会福祉協議会が入っているので大丈夫だと言った。社会福祉協議会は、僕のことを知っているか？、分かっていない人たちだ。どうしていいか解らない人たちが議論していても、我々は取り残されるだけ。

間違っても、そうならないために、動く！

■ 追加で… ■

最初の72時間

AJUでは72時間が大事だと考え、まず、生命の確認をすることになっている。これは、東海豪雨での経験から来ている。

災害対応は、災害の規模によって違う。直下型で、大きな地震、被害を想定している。そのなかでAJU職員が中心になること。

わたちの所長の水谷は、桑名からAJUまで通っているが、直ぐに来るのは、無理。

ありのまま舎の白井は、大震災のとき、東京に居て、電話が繋がらず。3月11日から16日までかけて、ヒッチハイクして、仙台へ帰った。

職員を招集するといっても、被災した状況では、なかなか来られない。

都会では、在宅で自立している人が多い。そういう人をどう支援していくか。職員も被災する。職員が家族のために、と言え止めるわけにはいかない。

AJUの職員も参集する。来るときに、誰の確認をして来るか、コーディネートする。AJUの隣近所のこと、名古屋市のこと、そして、全国の支援も受け入れる。AJUはネットワークがあるので、来てくれるだろう。そういう人達のコーディネートをどうするか。AJUだけでなく、名古屋市への支援も、全国へ発信できるだろう。

最初の72時間をどうするかということで組み立てている。

ライフラインが止まったとき、どうするか。

人工呼吸の人はどうするか。発電機を24時間動かすと、むっちゃ騒がしい。ありのまま舎ホスピスでは、ソーラーを付けて、蓄電池で、何回路にもして…という対応を始めた。

AJUでは、冷蔵庫用の発電機を用意しておけ、と指示している。ピアなごやは、お風呂屋のあとなので、井戸があるが、枯れているかもしれない。何人も人が来たら、少々の水を持っていてもあつという間に無くなるから、井戸が使えるとよい。乾パンを朝昼晩食べられるか?、さとうのご飯も、温めないといけないし…食品を加工できるようにする。

ユーストアが、阪神淡路大震災の、1月17日に、ボランティアにということで、弁当を2万食届けた。次の日から、1日多い日で、30万食の注文が入った。神戸へは、生ものの運搬が、東の限界が名古屋だったから発送できた。そんなツモりはさらさらなくやったのだけれど、儲けさせてもらったと言う話を聞く。

次の日から、弁当は届く。

でも、役所は、1000人のところに、900個だと、配らない。不公平だからと。捨てたところもあると聞く。

一斉、大量、公平、画一。平和なときはこれでいい。仕組みが作ってあっても、担当の者が死んだら、分からないというのが、役所だ。

AJUでは、誰に、どういう責任を与えてということで、とにかく動かせるように、と。とにかく72時間。まずは安否確認をする。

福祉避難所は、機能しない。

動ける人のもので、動けない人は行けない。介護が必要な重度障害者は、対象外。問題解決することが山ほどあって、福祉と言ってかえって選別されるだけ。

要援護者は、家族、民生委員、地域住民、行政職員が介護するという。名古屋市は、ヘルパーを220万時間派遣している。それを、行政職員だけでやれるわけない。特に、精神的の障害者は、パニックを起こす。

ガイドラインができて、何でも解決するか?…そんなはずではなかったのに、という

ことになる。



災害時のニーズ…

東日本大震災では、全国からボランティアが入った。やったことって、瓦礫撤去、傾聴、…。社会福祉協議会がやることか?、ボランティアセンターがやることか?。写真の整理?…落ち着いたらやることかもしれないが。

仮設住宅でも、「応急救助指針における仮設住宅の建設に関する原則」に、バリアフリー仕様とすること、多様なタイプの仮設住宅を提供することと書いてある。書いてあるから、やらないかんのだわ。

穴だらけの、何の役にもたたんことが、山ほど。

どうするの?、声を出して!

仮設住宅の担当の人は、抽選するだけ。一斉、大量、公平、画一…そういう仕掛け。

AJUの施設計画も、いい計画でも、山の中へ、と言う。何かあったら困る…ということ。

一斉、大量、公平、画一でやる部分は、進化した。避難所では、けもの道から、碁盤の目になった。今回の大震災では、間仕切り。やっとプライバシーを考えるようになった。行政から、AJUへ、間仕切りの要請があった。

災害時の避難所間仕切りセット

<http://www.aju-cil.com/bousai/majikiri.php>

中日新聞への86億円の義捐金は、何に使われたか？

下手をすると、一般会計に入るんじゃないかという声もある。

朝日新聞厚生事業団の評議員をしていて、義捐金は、高齢者、障害者、子どもに、と言ったが、結局、中央共同募金会と日本赤十字へ。公平に、ということで、義捐金が配られたのは、8月頃だった。今すぐ使って欲しいと集まった金ではないのか？

7月から、朝日は、救援金になった。預かり金だったものが、朝日が独自に使えるようになった。子ども、両親を亡くした子どもにまず、と言った。久米宏が、テレビ朝日ではなく、朝日新聞に2億円出した。

今回は、特別だった。次回は、進化が問われる。

中日新聞の義捐金は、名前が出る。最初のうちは、100万円で、顔写真まで出していた。やっぱり、夜のスポーツニュースと一緒にだ。

そして、まだ、全部は、配られていないのではないか。使い方が報告できるようにしてもらいたい。

アメリカでは、お金を集めて、ある団体に渡して、こういうことに使って欲しいと言う。こういうことに使うから、お金を出して欲しいと言う。なので、目的が達成されると、その団体は解体されて終わる。福祉団体も、できては、壊れていく。目的に沿って支援する。

今、課題は山ほどある。

僕らだと、障害者中心に、要援護者の支援の仕組みをしっかりと作り、声を出していくこと。それが使命。



■ 意見交換 ■

● 4、5年前、行政が福祉事業所の利用者の安否確認をしないさいと言ってきた。でも、言ってきただけで、全く情報回収をしていない。

(山田) AJUに関わっている人には、まず安否確認する。時間差はあるが、とにかく確認する。どこかに繋がっている人はいいが、繋がっていない人はどうするか？

● 介護度が高い人は動かすことができない。施設入所者も、夜、宿直の介助者一人では何人も動かさない。

(山田) 直下型が来たら…諦めやあ〜。地震は、いつ来るか分からない。雨、台風は予告できるが。

各事業所が安否確認をすることしかないだろうが、状況によってはできない。繋がっている人はいいが、震災の程度によっては、一事業所では何もできない。対象者が200人いたら、できない。

● いつかはそういう場面がやって来る。

■ 今回の大震災である津波被災地の老健関係者に聞いたところでは、地震直後に車で普通の避難所へ。動かせる人ばかりだったので、3往復し、連れて行った。避難所には生徒・学生がいる時間帯だったので、生徒たちが担ぎ上げてくれた。避難所は、1階は浸水。3階に缶詰。3日目の昼に水が引いて、系列施設の空いているところに入れた。

ホームも浸水した。そこにいた人は地震直後の避難で無事だったが、ホームへ来ようとした関係者が1人亡くなった。最初のうちはメールで安否を確認できたが、直ぐに繋がらなくなった。その後は、ホームに貼紙して、書き込んでもらっていたということだった。

● 施設の人は管理しやすいが、在宅の人は…家が無くなっていることもあって、避難所へ見に行っ、探しに行っ、とりあえず避難所に入っればよし、と。

(山田) 知れば知るほど、大変。深刻な問題。昼間だったから良かった。夜だったら、大変。

これから、どういうまちをつくっていくか、大きな問題。

● 言わなきゃ変わらない…どこに、どう働きかけていったらいいか？

(山田) 釜石に1週間行っ、海岸端は悲惨。ちょっと離れると、何も変わっっていない。自分のまちで何が起きているか、分からない。情報が一切入っ来ない。

▲ 中にいて、一番被害が大きいところに、情報が無い。

(山田) 家族を亡くした人、そうでない人…自分たちからは声を出せない。誰かが、この指止まれと言え、地元で応援する人がいっぱいいる。

他所から来るボランティアでなく、地元の元気な人がやればいい。可哀想、気の毒でなく、仲間の支援のために。公平、画一では手が出せないが、誰かがこの指止まれと言うのを待っている。

何が課題かも、みんなで出さないといけな

い。

原発1基が動いたら、次々と？。絶対安全と言っ続けたが、チェルノブイリ、スリーマイルと事故はあっった。

専門家が、市民に正しい情報を流して、市民に喚起してくれないといけな